

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471504310		
法人名	エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷 戸手		
所在地	福山市新市町戸手2282-1		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果市町村受理日	平成28年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台27-17-101		
訪問調査日	平成27年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者各々の個性や特徴を把握しながら、出来る作業は共に行い達成感や充実を味わえるように共同生活を営んでいます。アクティビティ面では、毎日のラジオ体操やリハビリ体操を両ユニット合同で行い共に声を出して元気に行っています。また、楽器を使っての音楽レクや綱引き・玉入れ・団扇ゲーム等職員が考案したものを楽しみながら行う活動も特徴です。地域活動では、地域の溝掃除・祭りの参加・子供会行事(とんど)・サロン参加等行い地域と密着した活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、閑静な住宅地と自然に囲まれた環境にある。町内会に加入し、清掃活動や地域行事、サロンの参加により、地域住民と顔なじみの交流がある。生活面では、意向や要望、得手・不得手などを把握し、作業の役割分担を検討・対応している。一人ひとりにあわせてリハビリメニューや生活リハビリによりADLの低下防止に努めている。リビングでは、個人スケジュールや献立が書かれてあり、利用者の混乱を予防する工夫が見られる。管理者は、ヒヤリハットの報告に対して迅速に検討したり、朝礼時に目標を挙げ、就業後は目標が達成できたか確認するなど、職員のスキルアップに努めている。また、職員の災害に対する意識を高めるために、事前予告なしで避難訓練を行うなどリスクマネジメント力が高い。職員も目標に向かって邁進すると共に、利用者に穏やかな生活を提供したいと取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット目標にて「地域活動に参加し人々との触れ合いを大切にする」を掲げ様々な地域行事へ参加している	理念を掲示するとともに、朝礼時に復唱することで、職員全体で共有している。必要時、ミーティング時などに、管理者が職員に確認して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には積極的に参加、またホームへ来て頂けるように祭り等イベントを開催している	町内会に加入し、清掃活動や地域行事に参加することで、地域の一員として役割を担っている。月1回の地域サロンで地域と顔なじみの関係となり、果物や野菜の差し入れがある等、地域住民との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事には積極的に参加することで、入居者の顔や認知症について間接的に理解して貰っているのではない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出た意見をまとめ活かせるように取り組んでいる	民生委員・市支所職員・包括職員等が参加して、隣接する小規模多機能事業所と共に、2か月に1度開催している。事業所の行事報告や避難訓練を兼ねて行うなど、意見交流に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種書類提出時など近況報告を行い連携が取れる体制をとっている	主に管理者が連携・対応し、利用者に応じて、情報を得ながら、生活上必要な書類の作成や申請が円滑に出来るよう、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束0を掲げ全職員で取り組み実施している	法人全体で接遇や虐待防止関連の勉強会が開催されている。身体拘束委員会では、事例検討があり、朝の申し送りやミーティング等で、職員と話しあう機会をもち、知識の向上やスキルアップに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年間スケジュールに研修項目をいれ防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々個々のスキルアップを目指し理解に努めているが、活用できるまでには至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事項に書かれていないリスク等も説明し納得された上での契約にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人でのアンケートや面会時にケアプランへ反映できる項目を伺い、運営にも役立っている	家族の要望は、年1回の法人アンケートや面会時に聴く機会を設けている。出された意見や要望は検討し運営に活かしている。利用者の要望は、散歩や入浴時などの時間にゆっくりと聴くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本年度は改善項目を全職員より組み上げ法人代表が改善に取り組んだ	月1回のミーティング等で、意見や提案・要望を聴いている。職員全体で、問題提起し、改善案を考え、経費削減に取り組む等、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与等査定時に職員の声を組み上げ企業努力をされています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ研修を月1回法人で行い、外部研修は各事業所対応としています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広報営業時など近況報告やお互いの意見交換を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には馴染みの関係が築けるようプランを主に立て信頼関係が築けるようにしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人とともにご家族との信頼関係が築くことが大切でそこから出てくるニーズがカギとなることがあるので主を置いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の必要とされていることを理解し今後につなげられるように努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはして頂くを目標に職員が行う事も一緒にできないか模索して行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を取り合う事で家族とともに本人を支える取り組みをしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方は面会するのに遠慮がちである次回につなげられるように環境づくりに努力している	受診の際にドライブがてら、利用者の馴染みの場所を回ったり、家族の協力を得て、仏壇や墓参りをする事もある。また、友人や知人の面会時は、ゆっくり話ができるよう雰囲気作りを支援し、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集まることで自然とコミュニティが形成されている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談事や支援することがあれば積極的に行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を尊重しています	利用開始時の情報や、利用者との普段の会話や表情やしぐさなどから、思いや希望を聴き、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしぶりを家族に伺う事で把握し入居後の生活に活かしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記同様暮らしぶりを把握して1日の過ごし方を模索し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となってカンファレンスでは意見を集約している	利用者・家族の要望や、主治医・看護師の意見を確認後、介護計画を作成している。カンファレンスを開催し、担当職員が3～6か月毎見直しを行っている。状況変化等があればその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきも介護記録へ残しプランへ反映させています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の中での様々なニーズが発生すれば柔軟な対応をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりを絶やすことなく過ごせるようにしています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を伺いかかりつけ医にお願いしている	利用開始時に確認し、利用者・家族の納得の主治医となっている。月2回の往診の体制が整い、夜間も電話で指示を受けることができる。必要時、歯科の往診や他科受診をすすめる等、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気づきを看護師出勤時に伝え相談連絡を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院からの要望等には素早く対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の必要とされる意向を尊重し取り組みながら医師・看護師・職員で話し合いながらケアに取り組んでいる	利用開始時に、看取りや重度化した場合の基本方針を説明し、了解を得ている。利用者の状態に応じて、家族と主治医・看護師及び職員が話し合っ方針を共有し、連携態勢をとりながらチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会やシュミレーションをこ行う事やマニュアルを置いています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の把握と年2回以上の避難訓練実施また事前予告なしの訓練も行っている	昼間・夜間想定で、消防署立ち会いのもと、消火訓練・火災避難訓練を実施している。また、事前予告なしで訓練を行い、職員の災害に対する意識を高めている。備蓄やスプリンクラーの備えがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベート空間である居室で過ごす時間は大事にしています	一人ひとりの生活行動に合わせて、声量や調子に配慮しながら言葉かけや対応をしている。管理者は、個人情報の保護に取り組み、情報を適切に管理するよう職員に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは希望を伺い自己決定出来る様に声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大事に何か始める前は声を変えて自己決定を大事にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時などは丁寧に髭を剃る、自身で着る服を選んでもらうようにしておしゃれを楽しんでもらう		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえを一緒に行う事で楽しみの増加につなげる。食事に満足することで片づけも積極的にされている	職員と利用者が、畑で季節の野菜を収穫したり、食事の下ごしらえや調理・片づけなどを行い、役割を得ることで、楽しみを感じる事ができるような食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を基に旬の野菜・手作りで提供、状態に合わせて刻みやミキサーで提供		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、歯科医との連携を保っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しその人に合った声掛けトイレ誘導、ズボンの上げ下げ等は自身に任せるなどADL低下防止に気をつけている	排泄パターンや排泄時の様子を把握し、適した対応を工夫し自立支援に努めている。夜間は、睡眠を優先しながら、利用者一人ひとりに応じた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勉強会にて便秘予防を学び、水分・運動等の関連を日頃から活かしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望時には柔軟に対応、その方々に合わせて湯船につかる時間を考慮している	週に2~3回の入浴支援をしている。入浴困難時は、声掛けのタイミングや同性介助の試みや言葉・対応の工夫など行い、清潔の保持が出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活を充実することで自然と休める環境づくりに配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や頓服薬などは申し送りで伝え情報共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年齢が近いこともあり共通の話題が多い、食器拭き掃除など個々の役割を日課で行ってもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節のドライブや散歩を随時行っています	散歩や買い物など、日常的に外出支援をしている。月行事では、季節の行事や地域行事の参加や、利用者本人の希望で、誕生日に外食するなど楽しみな時間を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時に買い物へ出て支払いの手伝いをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にお手伝いしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を活けたり温度・湿度も確認し月1回以上は環境整備を行っている	共用空間は、広く、落ち着いた色調で、明るく、静かで、温度も適切に管理されている。ソファで、テレビを見たり、一人ひとりが思いのまま過ごせる空間があり、安心して居心地良く過ごせるような配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自身の好きな場所で過ごしてもらえるようにしています、ソファ・玄関ポーチ・外ベンチなど		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物や思い出のある品を家族が持ってこられ居室に飾るなどして居心地の良い空間を作っています	居室は、利用者の気にいったものや飾りを置くなど、居心地良く過ごせる工夫をしている。利用者が安全・安楽に過ごせるように、家具の配置の工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	扉の開閉確認、ごみ箱の位置など危険予知に努め歩行に邪魔にならないようにしています		